

# 経済情勢 (10月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、世界的な金融引き締めや中国経済の減速などを背景とした海外経済の下振れや、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

## (全国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を下回った
設備投資	機械受注（10月）は前年を下回った 2023年度の設備投資は前年を上回る計画
公共投資	公共工事請負額（10月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

## (中国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（10月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（10月）前年を上回った
輸出	輸出金額（10月）は前年を下回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

## 1. 景気動向指数(CI)(10月)

(全国) 一致指数は3カ月連続で上昇している。

(中国) 一致指数は3カ月連続で上昇している。

(全国)

- ・一致指数は115.9(前月差+0.2ポイント)と3カ月連続で上昇。
- ・先行指数は108.7(同▲0.6ポイント)と2カ月連続で低下。



C I 一致指数(前月差)	0.2
---------------	-----

指標名	寄与度
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.30
有効求人倍率(除学卒)	0.23
鉱工業生産指数	0.18
商業販売額(卸売業)	0.11
営業利益(全産業)	0.04
労働投入量指数(調査産業計)	▲0.01
耐久消費財出荷指数	▲0.02
輸出数量指数	▲0.14
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.22
商業販売額(小売業)	▲0.27

C I 先行指数(前月差)	▲0.6
---------------	------

指標名	寄与度
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.75
東証株価指数	▲0.38
中小企業売上げ見通しDI	▲0.34
日経商品指数(42種総合)	▲0.13
新設住宅着工床面積	▲0.05
マネーストック(M2)	0.01
消費者態度指数	0.22
新規求人数(除学卒)	0.25
最終需要財在庫率指数(逆)	0.64
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

(中国)

- ・一致指数は88.3(前月差+0.3ポイント)と3カ月連続で上昇。
- ・先行指数は82.9(同▲0.9ポイント)と3カ月ぶりに低下。



C I 一致指数(前月差)	0.3
---------------	-----

指標名	寄与度
最終需要財出荷指数	0.42
全産業業況判断DI	0.28
通関輸入額	0.28
有効求人倍率	0.12
所定外労働時間(製造業)	▲0.06
鉱工業生産指数	▲0.09
生産財出荷指数	▲0.75

C I 先行指数(前月差)	▲0.9
---------------	------

指標名	寄与度
新設住宅着工戸数	▲0.65
実質百貨店販売額(前年比)	▲0.51
銀行貸出残高(前年比)	▲0.48
生産財生産指数	▲0.31
新規求人倍率	▲0.16
鉱工業製品在庫率指数(逆)	▲0.11
中小企業業況判断DI次期見通し	0.10
建築物着工床面積	0.54
消費者態度指数	0.77

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。

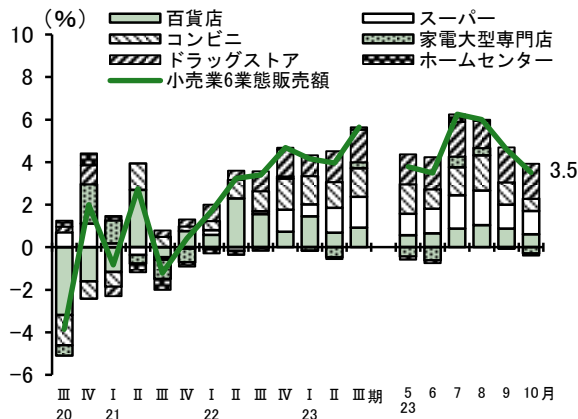
資料: 全国は内閣府「景気動向指数(速報)」、中国は当社で作成

## 2. 個人消費 (10月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直している。

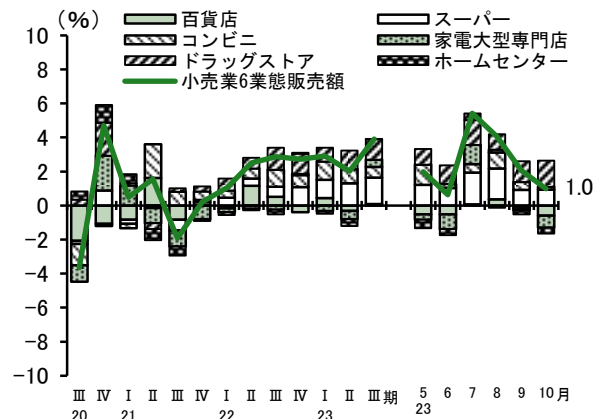
### ● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、23カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.5%)。物価上昇による節約志向がみられるものの、食品等の店頭価格が上昇したことで売りが伸びた。残暑が続いたことで秋冬物衣類や暖房器具等は低調に推移したものの、飲料等が引き続き好調だった。



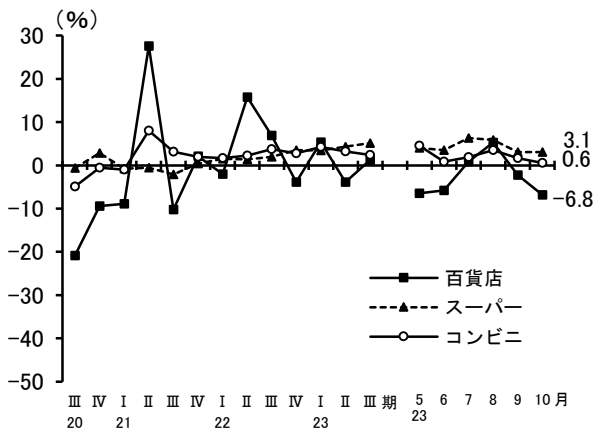
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

(中国) ドラッグストア、スーパーなどを中心に増加し、23カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.0%)。全国と同様、物価上昇による節約志向がみられるものの、食品等の店頭価格が上昇したことで売りが伸びた。残暑が続いたことで秋冬物衣類や暖房器具等は低調に推移したものの、飲料等が引き続き好調だった。



### ○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

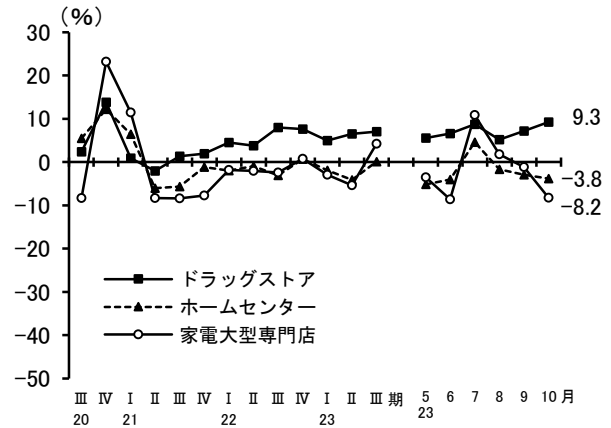
(中国)  
 ・百貨店は、一部店舗の売場面積縮小に伴う売上減のほか、残暑の影響で秋冬物の婦人服、紳士服等が振るわず、2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲6.8%)。  
 ・スーパーは、供給が回復してきた卵、野菜等がよく売れたほか、酒税改正により税率の下がったビールが好調に推移し、16カ月連続で前年比プラス(同+3.1%)。  
 ・コンビニは、行楽需要の高まりから来客者数が増加したほか、残暑の影響で飲料、アイス等を中心に販売が増加し、23カ月連続で前年比プラス(同+0.6%)。



注：全店舗ベース  
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

### ○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

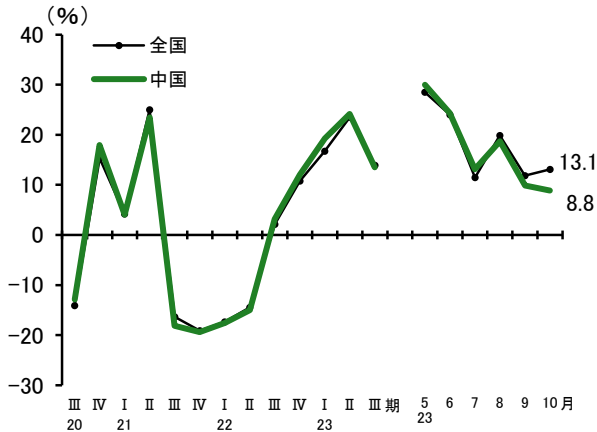
(中国)  
 ・ドラッグストアは、店舗増のほか価格上昇の影響で食品等が増加した。インフルエンザの流行から総合感冒薬等も伸長し、22カ月連続で前年比プラス(前年同月比+9.3%)。  
 ・ホームセンターは、物価高から木材、塗料等のDIY用品が引き続き低調だったことに加え、残暑の影響で暖房器具が低調に推移し、3カ月連続で前年比マイナス(同▲3.8%)。  
 ・家電大型専門店は、新商品効果でスマホが好調だったものの、買い替え需要の一服からパソコン、テレビ等が低調に推移し、2カ月連続で前年比マイナス(同▲8.2%)。



● 新車登録・届出台数 (乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 小型乗用車が減少したものの、普通乗用車、軽が増加し、14 カ月連続で前年比プラス (前年同月比 +13.1%)。部材の供給状況が好転してきたことで生産台数が回復した。仕入先の事故で一部工場が稼働停止したものの、登録車販売への影響は限定的だった。

(中国) 小型乗用車が減少したものの、普通乗用車、軽が増加し、13 カ月連続で前年比プラス (同+8.8%)。全国と同様、部材の供給状況が好転してきたことで生産台数が回復し、前年を上回った。

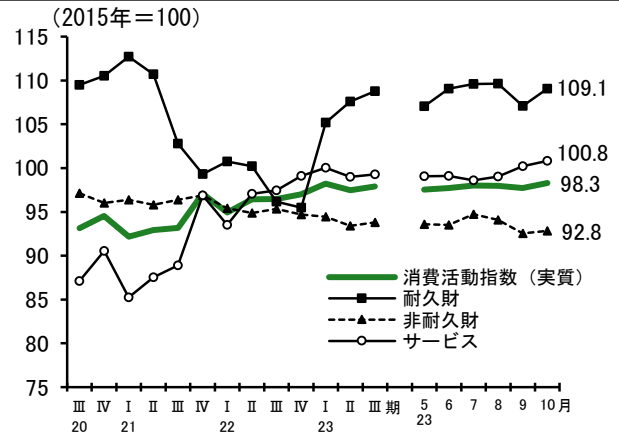


資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、  
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数 (実質)

(全国) 消費活動指数 (季節調整済) は 98.3 (前月比+0.6%) と 3 カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、前月から上昇した。新車の供給制約の緩和等により、前年の低水準から回復傾向にある。
- ・非耐久財は、前月を若干上回った。残暑の影響で秋冬物衣料等が低調だったものの、飲料等が好調に推移した。
- ・サービスは、前月を上回った。行動規制緩和の影響により、旅行や外食を中心に回復傾向がみられる。



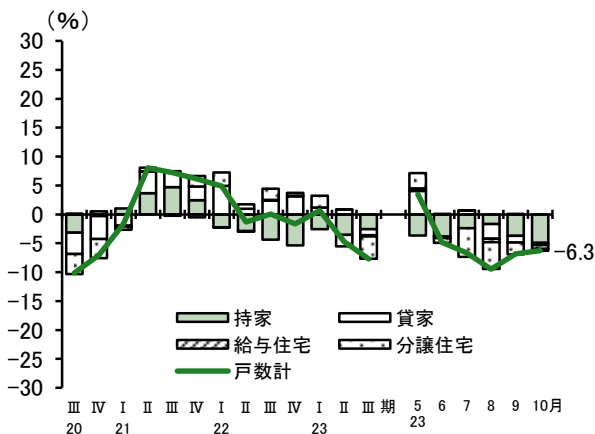
注：1. 季節調整済指数  
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7  
資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資 (10月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

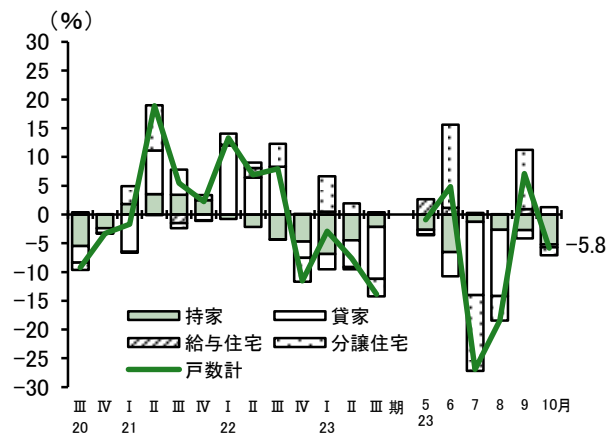
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 持家、給与住宅、貸家、分譲住宅のすべてが減少し、5 カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲6.3%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度  
資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 貸家が増加したものの、持家、分譲住宅、給与住宅が減少し、2 カ月ぶりに前年比マイナス (前年同月比▲5.8%)。



#### 4. 設備投資・公共投資（10月）

機械受注（全国）は、製造業、非製造業ともに減少し、前年を下回った。

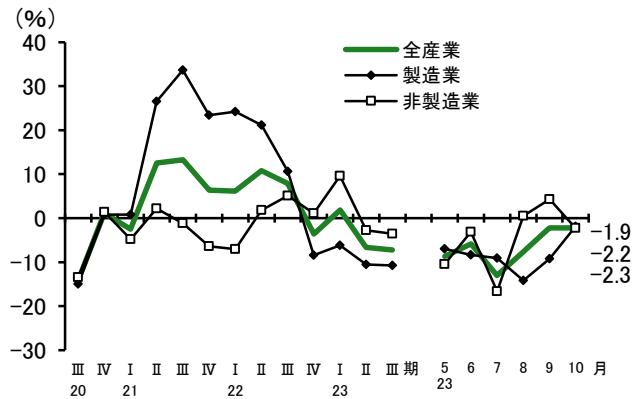
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

2023年度の設備投資は、全国、中国ともに前年を上回る計画。

##### ● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 8カ月連続で前年比マイナス（前年同月比▲2.2%）。
- ・ 製造業（同▲1.9%）は、はん用・生産用機械、化学工業などが増加したものの、電気機械、情報通信機械などが減少し、8カ月連続で前年比マイナス。
- ・ 非製造業（同▲2.3%）は、金融業・保険業などが増加したものの、情報サービス業、建設業などが減少し、3カ月ぶりに前年比マイナス。



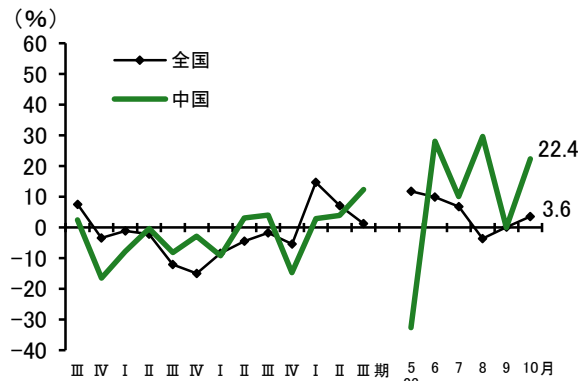
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

##### ● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国) 独立行政法人等、市区町村、国からの発注が減少したものの、都道府県、地方公社、その他公共団体からの発注が増加し、2カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.6%）。

(中国) 県からの発注が減少したものの、市町村、国、独立行政法人等、その他公共団体からの発注が増加し、2カ月ぶりに前年比プラス（同+22.4%）。

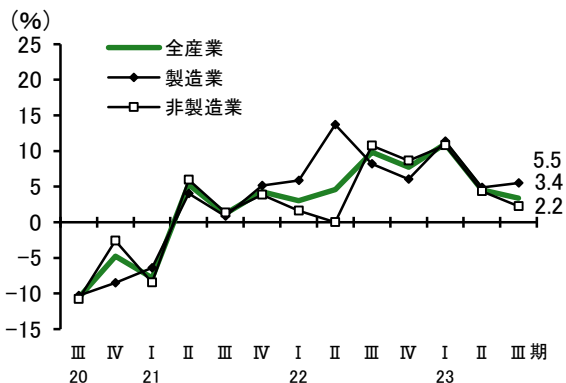


##### ● 法人企業統計（2023年7-9月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 7-9月期の設備投資額は、10四半期連続の前年比プラス（前年同期比+3.4%）。
- ・ 製造業は10四半期連続のプラス（同+5.5%）。
- ・ 非製造業は5四半期連続のプラス（同+2.2%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

2. ソフトウェア投資額を含む

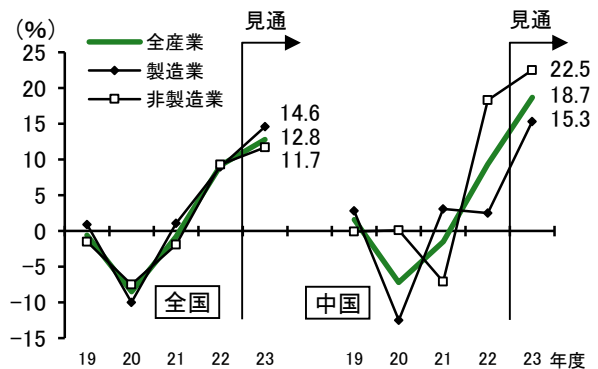
資料：財務省「法人企業統計」

##### ● 企業短期経済観測調査（日銀短観2023年12月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国) 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見通し（前年度比+12.8%）。製造業、非製造業ともにプラス。

(中国) 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見通し（同+18.7%）。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

## 5. 輸出・輸入(10月)

輸出金額は、全国が前年を上回ったものの、中国が前年を下回った。

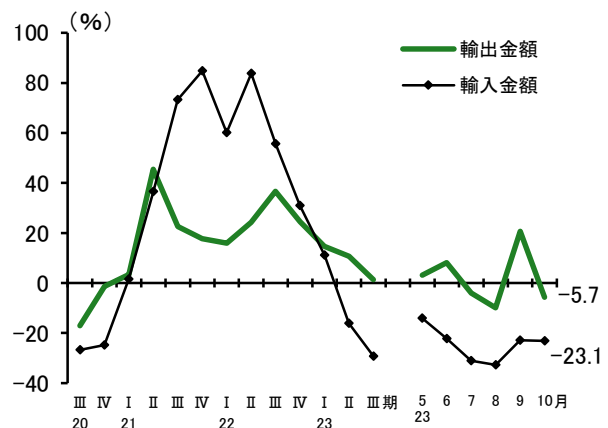
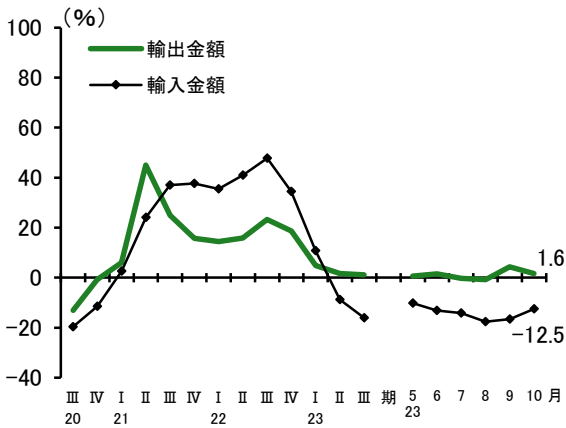
### ● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・輸出金額は2カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.6%)。品目別にみると、半導体等製造装置や医薬品が減少したものの、供給制約緩和の影響等により、欧米向けを中心に自動車が高い伸びとなったほか、船舶、建設用・鉱山用機械などが増加した。
- ・輸入金額は7カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲12.5%)。品目別にみると、資源価格の下落等により、石炭、液化天然ガス、原油などが減少した。

(中国)

- ・輸出金額は2カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲5.7%)。品目別にみると、供給制約緩和の影響等により、欧米向けを中心に自動車が増したものの、石油製品(軽油、灯油等)、半導体等製造装置、鉄鋼などが減少した。
- ・輸入金額は7カ月連続の減少で前年比マイナス(同▲23.1%)。品目別では資源価格の下落等により、石炭、原油、液化天然ガスなどが減少した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)  
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

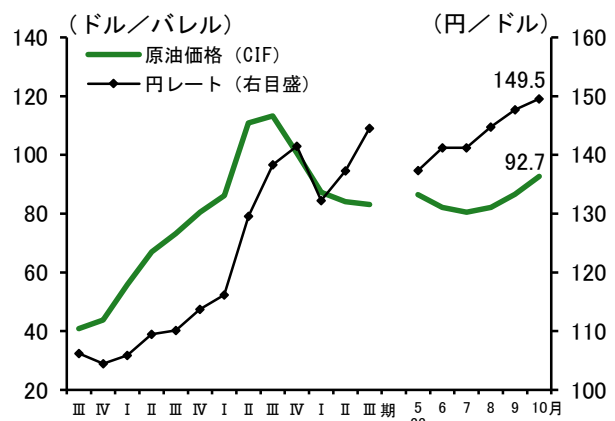
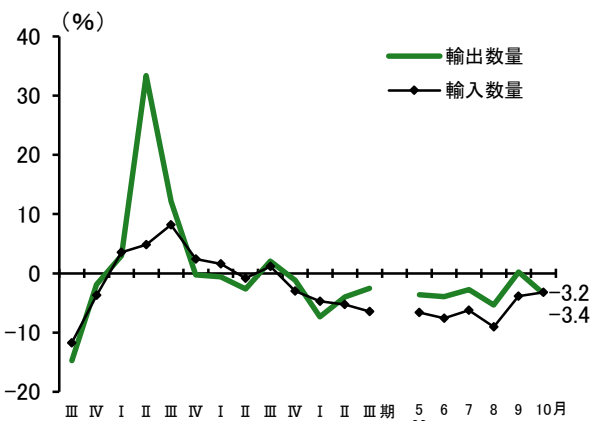
### ● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

- ・輸出数量は2カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲3.4%)。
- ・輸入数量は12カ月連続で前年比マイナス(同▲3.2%)。

### ● 原油価格・円レート

- ・原油価格は92.7ドル/バレルと前年に比べ13.3ドル低下(前月に比べ6.2ドル上昇)。
- ・円レートは149.5円/ドルと前年に比べ2.5円の円安(前月に比べ1.9円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁) 3. 原油価格は全日本通関CIF価格  
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月平均値  
資料: 財務省「貿易統計」

## 6. 生産動向 (10月)

全国、中国ともに、横ばい圏内の動きとなっている。

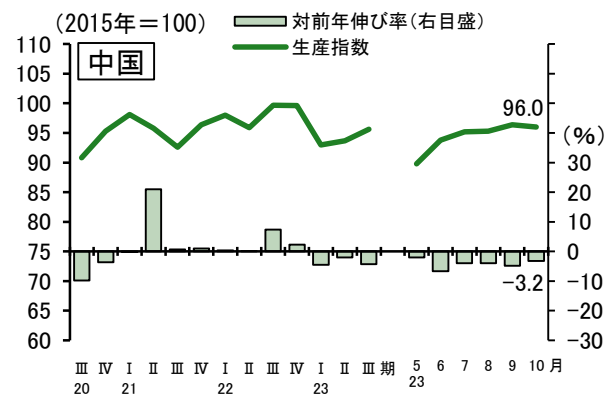
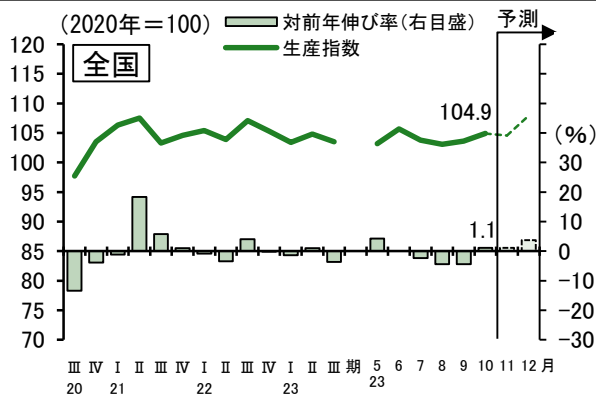
### ● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

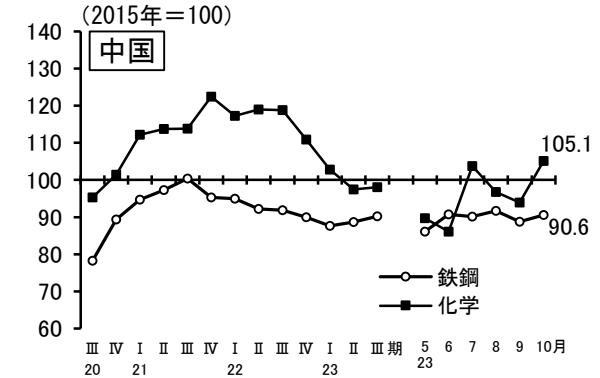
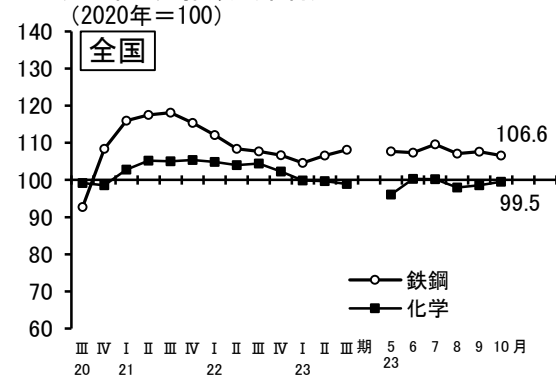
- 生産指数 (季節調整済) は、104.9 (前月比+1.3%) と2カ月連続で前月を上回った。鉄鋼が若干低下したものの、供給状況が好転してきた自動車が増加した。部品メーカーの事故により一部工場が停止したものの、限定的な影響にとどまり、好調を維持した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+1.1%と4カ月ぶりにプラスとなった。

(中国)

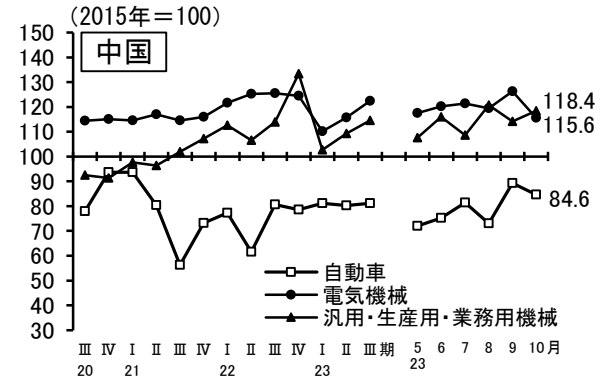
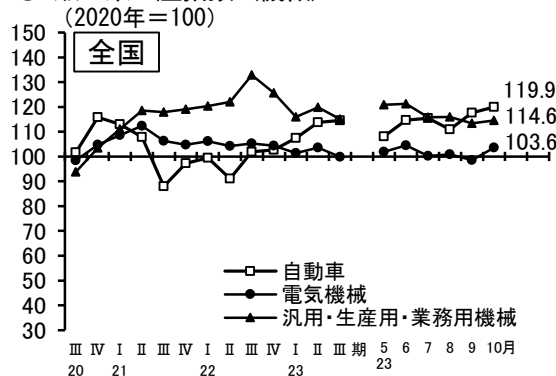
- 生産指数 (季節調整済) は、96.0 (前月比▲0.4%) と5カ月ぶりに前月を下回った。医薬品の生産増から化学が増加したほか、汎用・生産用・業務用機械等が増加したものの、電気機械や自動車などが低下した。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲3.2%と6カ月連続でマイナスとなった。



### ● 鉱工業生産指数 (素材)



### ● 鉱工業生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出  
 4. 中国の最新月は速報値 5. 2023年4月確報分より、全国の鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された  
 6. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)  
 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では2010年基準の業種分類を適用 8. 「自動車」は中国では「輸送機械工業 (自動車・同部品)」  
 資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

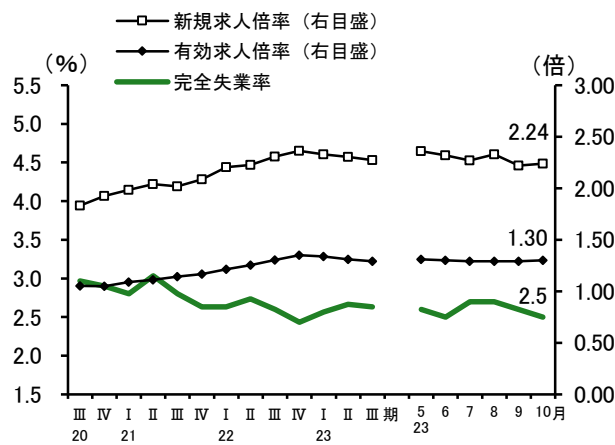
## 7. 雇用情勢(10月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人減らす動きもみられる。

### ● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

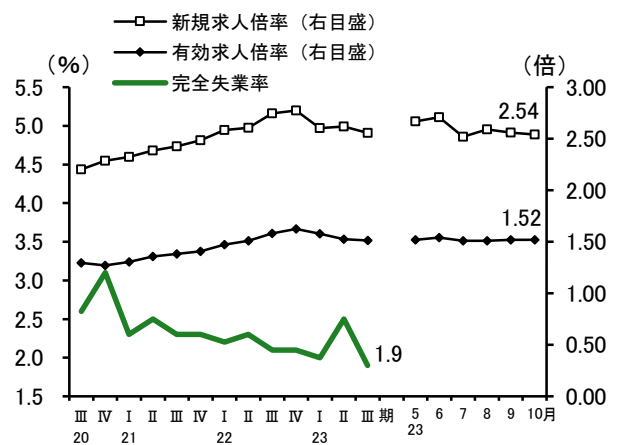
(全国)

- ・完全失業率は2.5% (前月差▲0.1ポイント) と2カ月連続で低下した。
- ・有効求人倍率は1.30倍 (同+0.01ポイント) と3カ月連続で上昇した。
- ・新規求人倍率は2.24倍 (同+0.02ポイント) と2カ月ぶりに上昇した。

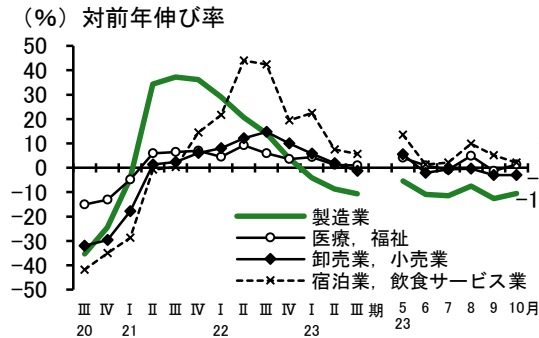


(中国)

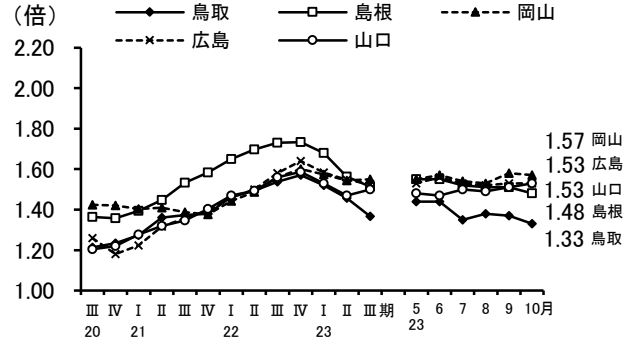
- ・有効求人倍率は1.52倍 (前月差±0.00ポイント) と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.54倍 (同▲0.02ポイント) と2カ月連続で低下した。



主要産業における新規求人数の推移 (全国)



有効求人倍率の推移 (中国5県)



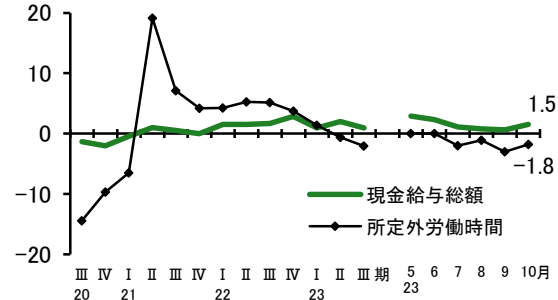
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値  
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

### ● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は22カ月連続で前年比プラス (前年同月比+1.5%)。
- ・所定外労働時間は前年比マイナス (同▲1.8%)。うち製造業は10カ月連続で前年比マイナス (同▲6.7%)。

(%) 対前年伸び率



注：1. 事業所規模5人以上の指数 (2020年=100) の対前年伸び率 2. 最新月は速報値  
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」